

厚生労働省

平成29年の熱中症災害状況を公表

厚生労働省は5月31日、平成29年の「職場における熱中症による死傷災害の発生状況」(確報)を公表した。平成23年以降、職場での熱中症による死傷者(死亡・休業4日以上)は、毎年400〜500人台で推移している。平成29年の死傷者は544人と、平成28年より82人増加。うち死亡者は14人で2人増加した。

業種別の死亡者で最も多かったのは建設業の8人(全体の約6割)。警備業では2人が死亡、そのうちの1人(30歳代)は次のような状況であった。「被災者は、災害発生当日の午前9時から宅地造成工事現場の警備業務に従事していた。午後3時頃現場作業が終了し、工事関係者が現場の片付けを行っていたとき、被災者が体調不良となったため、救急車で病院へ搬送された。しかし、翌日搬送先の病院で熱中症による多臓器不全により死亡した」

厚生労働省では、死亡した14人の状況を見ると、WBG T値の測定を行っていないかった(13人)、計画的な熱への順化期間が設定されていなかった(13人)、事業者が水分や塩分の準備をしていなかった(4人)、労働安全衛生法第66条に基づく健康診断を行っていないかった(5人)など、基本的な対策が取られていなかったと指摘している。職場における熱中症予防のための管理体制の確立と、具体的な対策の徹底が求められる。

厚生労働省が、「STOP! 熱中症」キャンペーンを実施中

厚生労働省は、職場における熱中症予防対策の徹底を図るため、5月1日から9月30日まで「STOP! 熱中症クールワークキャンペーン」を実施している。キャンペーンは、労働災害防止団体などと連携して推進。各事業場における重点実施事項としては、WBG T値(暑さ指数)の把握、WBG T値の評価、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育、異常時の措置、熱中症予防管理者の業務などを挙げている。

また、熱中症予防管理者の業務としては、次の項目を挙げている。WBG T値の低減対策の実施状況を確認する。あらかじめ各労働者の熱への順化の状況を確認する。朝礼時等作業開始前において労働者の体調を確認する。WBG T値の測定結果を確認し、その結果に応じ、作業を中止または中断させる。職場巡回を行い、労働者の水分及び塩分の摂取状況を確認する。

東京ビル政連の動き

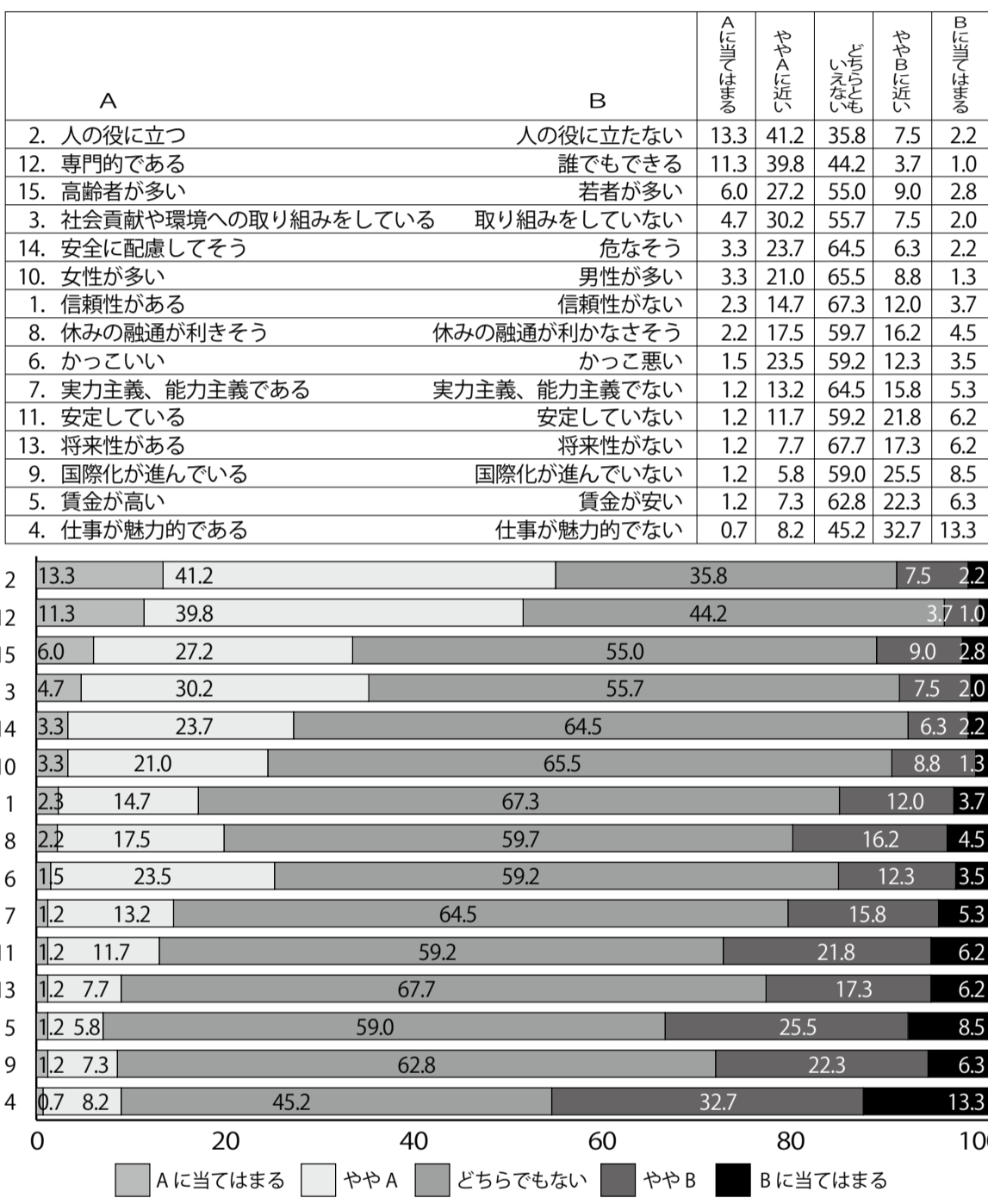
- 平成30年4月〜8月
〔4月19日〕 平将明 第5回平フォーラム
〔4月26日〕 第63回全政連評議員会
〔5月9日〕 秋田一郎 都議会自民党幹事長就任祝賀会
〔5月10日〕 第15回松本文明政経フォーラム
〔7月3日〕 第102回理事會
〔7月18日〕 丸川珠代さんを励ます會
〔7月26日〕 高木けい君と國政を語る會
〔7月30日〕 都議会公明党平成31年度東京都予算に対するヒアリング

ビルメンテナンス業と東京協会の認知度・イメージ調査結果 第5回

設備管理業は「専門性が高く賃金も多いが、女性は少ない」?

(公社)東京ビルメンテナンス協会が男女600名を対象として実施した「一般の方が、ビルメンテナンス業と東京協会に持っているイメージ調査」のうち、「清掃業イメージ調査」では「人の役に立つ」「専門的である」という回答が多かったが、「設備管理業イメージ調査」においても同様に、そうしたポジティブなイメージの回答が多かった。また、「社会貢献や環境への取り組み」については、清掃業ではポジティブなイメージが29.4%だったのに対し、設備管理業では24.4%と、清掃業より若干低い評価となっている。設備管理業イメージ調査結果の一般的な見方として、東京協会では「設備管理は、ほかの業種より専門性が高く、賃金もその分多いイメージではあるが、女性は少ないイメージである」と総括。

設備管理業イメージ調査



【発行】 東京ビルメンテナンス協会
【価格】 一般1,000円(税込1,080円) 会員500円(税込540円)
【判型】 A4判
【頁数】 41頁
「よくわかるビルメンテナンス業問題解決における再発防止対策の進め方」
東京協会の新刊活用を!

ビルメンテナンス業の現場で発生する問題として多いのが「トラブル」「クレーム」「労働災害」の3点である。問題が発生してしまつたら、即時の是正処置や対応、水平展開による類似の問題発生予防処置、根本的な原因の除去などが求められる。このうち本書では、根本的な原因を除去できるよう、「再発防止の基本」「再発防止対策手順の進め方」「再発防止対策書の作成の仕方」の3章構成で、問題の適切な再発防止策の立て方をまとめている。具体的な手順、事例を含め、問題解決力の向上を図れる構成となっており、担当者には必携!